

社会性・コミュニケーションスキルの学びのために…

小集団活動の運営ガイドライン

～未就学から小学生のお子さんを対象にした小集団活動～

2023年12月 6日

札幌市自閉症・発達障がい支援センター 塚本・坂井

児童発達支援事業所や放課後等デイなどで…

- ・これから小集団活動をしてみようと思っている支援者の方
- ・小集団活動に興味があるけれど、どのような準備から着手して良いかわからないと思っている支援者の方
- ・小集団活動を始めたけれど、途中で運営がうまくいかずやめてしまった経験のある支援者の方 など

小集団活動を運営するために重要と考える3つのポイントをご紹介します。別紙に実践紹介（※1）もありますので、ご関心のある方はそちらも合わせてご参照ください。

（1）活動を始める前に～グルーピングや目標設定、活動設定までの流れ～

☆グループのメンバリング

- ・現在の社会性スキルと活動内容理解のための認知面の両面において、大きく発達やスキルに差がない子どもでグルーピングする
- ・1グループは、3-5人程度が理想

☆目標設定

- ・各対象児のニーズと社会性アセスメント（※2）に基づいて、一人一人の目標を設定する
- ・ライフステージ（例：来年度小学校通常級に上がるなど）の観点を含めるのも良い

※1：小集団活動実践紹介編、ステップシートもご参照ください

※2：みらくるオプションシートもご活用いただけます

☆活動設定（小集団活動の主活動の選定）

- ・主活動：その活動場所でも可能な活動と対象児の興味関心に基づいて活動内容を設定する（例：制作系、ゲーム系、レクリエーション系 etc..）
 - ・活動のねらいは、あくまでも対象児の社会性やコミュニケーションのスキルの学びなので、他のスキルも…など、あれこれと狙いを広げず、的を絞って設定をする
- * ASDのある人がわかりやすいと言われているスキル学習の流れ“個別場面→小集団の場面→生活場面”をベースに、必要に応じて、事前に個別場面を設定したり、生活場面でスキル発揮ができるように練習を設定するのも良いと思います

（2）プログラム運営のポイントになること

☆スタッフの役割

- ・メイン担当：活動を進めるスタッフ（1名）
- ・サブ担当：子どもの理解やスキルの実行を助けるスタッフ（1～2名）

☆できるだけ手間のかからない、わかりやすい記録

<内容>

- ・次回の活動内容の確認
- ・子どもの目標に対する進捗状況の共有（子どもの参加状況、取り組みの実行度合い（できたかできなかったか、どれくらい（何分）できたか、援助が必要だったか等）

☆チーム支援

関係スタッフで、活動の趣旨や対象児の目標や進捗状況、興味関心などを把握できていると取り組みが積み上がりやすいため、書式を活用して共有できていると望ましい（別に紹介している実践では、みらくる（※3）を使用）

（3）支援（指導方法や環境調整）のポイント

指導方法：ASDのわかりやすさ（認知特性）に応じて、下記のような指導方法や工夫を用いる

☆文字やイラストなどの視覚情報

- ・ソーシャルナラティブ…状況の理解が必要と思われる時、スキルのやり方がわかりやすく示されると良いときなどに、文字やイラストなどで情報を整理して示す方法
例）おともだちとしたいあそびがちがうとき、もったのしくあそぶほうほう 等
- ・ビデオモデリング…社会性スキルを教えたいが、言語による説明では対象児イメージがしにくいときに活用できる他、スキルのフィードバックを行いたいときにも活用ができる
例：本を独占して見てしまう子どもに、他の子どもも見やすいように一緒にの向きに置いて見ることを教えたいときにうまくできている様子を撮影し、その動画を一緒に見ながら「Bくん嬉しそうにしてるよね」とフィードバックする、など。
- ・褒めカード…本人の好きなキャラクターをカードにして、本人がスキルをうまくできたときに、「かっこいいね！」などの言葉と一緒にカードを見せて褒める
- ・リマインダーカード…スキルができそうでできないときに、やり方をイラストや文字などで示したカードを作り、そのカードを見ることでスキルをおこなう手助けとする

☆関わり

- ・スキルの即時強化…すぐに褒められることで、「うまくできた！」という学習に繋がりがやすい
- ・フィードバック：スキルがうまくできていたときに「〇〇がうまくできていた」、「〇〇をしていてかっこよかった」など、都度、本人の好きな褒め言葉と一緒によかった点を具体的に伝えると何がよかったのかも含めて、伝わりやすい

☆見通し

- ・活動の流れを視覚的に示す…対象児にとって、活動がいつも同じ流れだと、小集団活動の枠組みの理解につながりやすく、学習の集中に繋がりがやすい

☆環境刺激への配慮

周囲の音や物に注意が逸れしまうと、狙いの学習が成立しづらくなることも考えられるため、物の配置や活動時間や場所の設定にはできるだけ留意する

* グループ活動をするときに、参加児童共通のグループを対象にした目標設定する場合と、子どもに合わせて個別に目標設定する場合があります（今回紹介している実践は、個別に設定しています）。ディさんの状況とそれぞれの特徴との兼ね合いで設定できると良いと思います。

<グループ全体への目標（狙い）の設定>

メリット：一度にまとめて設定できるので楽

デメリット：グループ全体に対するざっくりした目標になる

<個別への目標（狙い）の設定>

メリット：個別に応じた目標になるので、丁寧な段階が踏めたり、関わりができる

デメリット：個別に立てなければいけないので手間になる

※1：小集団活動実践紹介 https://drive.google.com/file/d/1pClAoY79ML7O4xp56BsJvIPIIMzVUGmD/view?usp=drive_link

※2：みらくるオプションシート https://drive.google.com/file/d/1DNwpg0lOXvbtKnO7M2kXb7cKas0_j7p0/view?usp=drive_link

※3：みらくるURL https://drive.google.com/file/d/1ECgMxYGWCHI3ID_XCFZAp1MQ0-zR_VaT/view?usp=drive_link

このガイドラインは、おがの機関支援等を通して関連機関の皆様と取り組んだ支援の内容等を参考に考えています。内容にご関心がある、詳細が知りたいという方は、おがのまでお問い合わせ下さい。